**手編みのセーターをありがとう**

**昌子よ。ご機嫌はいかがかな。俺は仲間が「終活、終活」というので、少しずつ片付けを始めたよ。先日、押し入れを片付けていたら、見覚えのないセーターが出てきた。**

**土曜日に娘の由佳が掃除に来てくれたので、早速セーターを出して尋ねてみた。すると、**

**「これは母さんが編み物を習い、父さんにと編んだものよ。店に行ってみた母さんが、『これでは駄目だ』と言って、店で買ったセーターを父さんに着せて、仕舞い込んでしまった手編みのセーターよ。今年の冬は家で着たら。今着てみて。私が見てあげるから」**

**と急かすので、着てみたよ。お前の温もりが伝わってくるような気がしたよ。**

**「毛糸も太いし、色もグレイで、父さんによく似合う。家で着るのには、これで十分よ」**

**ニコニコしながら由佳が言うので、私もつい嬉しくなって「今年の冬はこれで」と、言いつつセーターを見詰めたよ。ありがとう。**

 　　 応募時 **（岡山川県　八十代）　　岸野　洋介**